

青梅市文化財ニュース

第 1 6 8 号

平成13年10月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

滝 ノ 上

かつての『青梅市青梅』は、平成10年10月3日から、住江町を始めとする、全部で九つの地区に細区分されました。その中の一地区が、ここで紹介する「滝ノ上^{たきのうえ}」町です。

滝ノ上の東側は千ヶ瀬町、北側は仲町と上町、西側は天ヶ瀬町、そして南側には多摩川が曲流しながら東側へ流れています。滝ノ上町地区のほぼ中央を南北に、市民会館から駒木町を経て八王子市方向へ向かう国道411号線が走り、青梅市立美術館の西方からは、西東京市を経て新宿へ向かう青梅街道が延びています。

地区内の地形は、全体として南方へ傾斜した河岸段丘となっていますが、多摩川に面するところは、高さ35メートル前後の急な崖になっています。釜の淵公園から美術館の下を東へ延びるこの崖は、古くから不動淵と呼ばれています。不動淵で、美術館の西側には、一本の白い糸のような流水を落とす、白滝あるいは富士向ノ滝と称される、高さ30メートル前後の滝がかかっています。「滝ノ上」の地名は、この滝の上に位置していることに由来しています。落下する水の量が多い頃には、水が音をたてて落ちるため、滝があることが分かりますが、渇水期の頃は音がしないため、滝の存在には気付かないようです。

滝を作る川の名前は「天ヶ瀬堀」。天ヶ瀬堀の源流は、「将門の梅」の伝説で知られている、金剛寺の境内にある小さな湧水です。しだれ桜の下を流れ、境内を出てからは、現在はグラウンドとなっている敷地を東方へ向かいます。グラウンドは、かつては天ヶ瀬田圃^{あまがせたんぼ}と呼ばれる水田があったところで、青梅では数少ない水田でした。グラウンドの南東端からは、小さい水路となって青梅街道と国道411号線が交差する場所に向かい、そこから国道411号線の「稚子橋^{わかこばし}」の下を流れて、白滝で多摩川に落ちています。交差点には、稚子橋にまつわる伝説を紹介した説明板が立てられています。

滝の下には滝壺はなく、河原の岩場となっています。

美術館の北側にある寺院は常保寺で、嘉吉元年（1441）に示寂^{じじゃく}した吹峯宗蔭和尚の開山と伝えられています。寺の山号を、かつては白瀧山と称し、現在は瀑布山と称しますが、いずれも白滝と深い関係を持つ名称です。また、かつては、滝の脇に白瀧不動と称する不動（裏面へつづく）

が祀られていましたが、これが不動ノ淵の由来となっています。現在、白瀧不動は山門を入った境内に移されています。

現在、青梅の市街地の中心は、森下町の熊野神社から青梅駅前を経て西分町へ向かう、青梅街道の両側です。しかしながら、ここが繁栄するようになったのは、新編武蔵風土紀稿によると寛永年間（1624～1643）以降で、それまでの古い青梅は、都立多摩高校の南側の、天ヶ瀬から滝ノ上を通り、千ヶ瀬に至る地区でした。江戸時代以前の古い寺院や神社の多くは、いずれも天ヶ瀬・滝ノ上・千ヶ瀬の各町にあり、このこともこの集落が古いことを示しています。

静かなたたずまいの滝ノ上は、市内では古くからある街のひとつです。

（文責 角田清美）